日本口腔顔面痛学会 News Letter No.78

（2024 年 12 月 18 日発行）
日本口腔顔面痛学会理事長　小見山 道
広報委員会担当理事　山崎 英子/委員長　池田 浩子

今回は，11 月 2-3 日に行われた第 22 回アジア口腔顔面痛学会学術大会について日本大学歯学部口腔内科学講座の滝澤 慧大先生に報告していただきます.

第 22 回アジア口腔顔面痛学会学術大会参加報告

日本大学歯学部口腔内科学講座　滝澤 慧大

2024 年 11月2-3日，台湾の台北栄民総医院において，第 22 回アジア口腔顔面痛学会学術大会（The 22st Scientific Meeting of Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders，AAOT）が開催された．まず渡航にあたり，数日前に発生し台湾を直撃した台風 21 号の影響で航空機の欠航・遅延が相次いでおり，我々のグループも果たして現地参加できるのかという不安が出発当日も残っている状況であった．しかし遅延はしたものの何とか台湾に赴くことができ，幸いにも予定通りの日程で現地参加ができた．参加を予定されていたにも関わらずやむなくキャンセルされた先生方もいらっしゃったが，ハイブリッド開催の準備やポスター印刷・貼付の代行などサポートしていただき，最大限ご配慮いただいた環境の中でミーティングが開催された．

「台湾の原宿」と呼ばれる西門の夜景

台北栄民総医院本棟（左），会場の第三ビル（右）

1 日目は 80 名近くが参集した．学術大会プログラムとしては，まず Keynote Speaker として **Chris Peck 先生（シンガポール国立大学）**が”Orofacial Pain and Related Disorder – Where to next?” というタイトルでご講演された．近年において慢性口腔痛の評価と管理は Biopsychosocial 的なアプローチへと進化したことで疾患のメカニズムや危険因子の理解が深まり，痛みの管理に専門家間の協力が重視されるようになった一方，慢性口腔顔面痛は依然として多くの人にとって QOL や医療費に影響を及ぼしており，今後どのようにマネージメントに生かすかが課題であると結論付けていた．続いて **Ni Luh Dewi 先生（トリスアクティ大学，インドネシア）**が TMD 評価と管理における Biopsychosocial 的アプローチについてご講演された．

Chris Peck 先生の熱のこもったご講演

3 人目の演者は日本代表として，**西須大徳先生（愛知医科大学）**が”Pain management strategy in Japan”というタイトルでご講演された．日本における慢性疼痛の取り組みとして，医師・歯科医師や国民への啓発・広報，アプリを用いた教育，いたみセンターでの集学的治療などについて概説いただいた．各国の先生方も大変興味深い眼差しで講演を聞き入っていた．

その後は **Yeon-Hee Lee 先生（慶熙大学，韓国）**が口腔顔面痛の診断と管理における AI の役割，**Jessy Joie P. Domagsang 先生（サント・トーマス大学，フィリピン）**が口腔顔面痛患者に行っている理学療法の紹介，**Chia-Shu Lin 先生（国立陽明交通大学，台湾）**が高齢者における咀嚼機能障害の臨床的・脳機能的特徴，**Ding-Han Wang 先生（国立陽明交通大学，台湾）**が変形性顎関節症モデルラットと関節リウマチモデルラットにおける下顎頭形状の違いを観察するための新たな分析，**Somsak Mitrirattanakul 先生（マヒドン大学，タイ）**が睡眠時無呼吸症候群に用いる OA に対する Precision Medicine についてそれぞれご講演され，1 日目の学術大会が終了した．

西須 大徳先生（体調不良の中お疲れ様でした！）

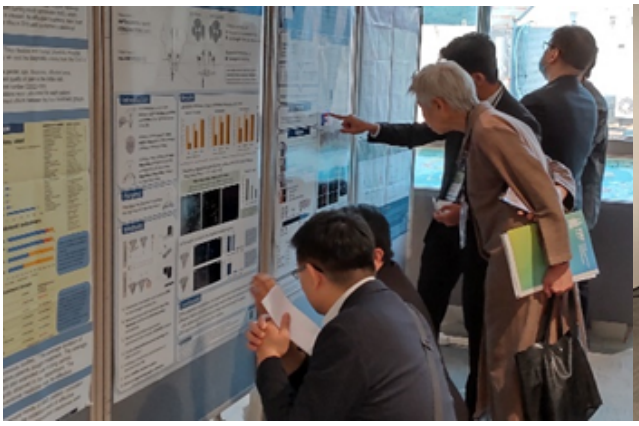
1 日目の終了後，会場近くのレストランで Gala Dinner が開催された．会場にはビールやウォッカなどの台湾銘酒，豪勢な料理の数々が用意されていた．各卓美味しい食事に舌鼓を打ちながら，会話も大いに弾んでいたように思う．台湾はカラオケが盛んなようで，途中各国ごとにステージ上で一曲を披露する催し物があった．日本チームは故・坂本九の「上を向いて歩こう」を合唱し，会場は大変盛況であった．

Gala Dinner の様子

（まだしっかり記憶がある頃）

2 日目はケースプレゼンテーションやポスターディスカッション，授賞式などが執り行われた．ケースプレゼンテーションはフライトの都合上 WEB 参加となったが，症例検討を通してアジア全体での口腔顔面痛に対する知識共有ができた良い機会となった．

ポスターは基礎・臨床研究，症例報告合わせて 33 演題が集まった．いずれも英語での活発な質疑・意見交換が行われていた．栄えあるポスター賞第 2 位に，臼田頌先生（慶應義塾大学）が受賞された．


ポスターディスカッションの様子

ポスター賞授賞式（臼田先生おめでとうございます！　）

私自身，入局し初の海外学会参加，英語でのポスター発表となった．良い緊張感をもって参加することがで

き，全てが大変貴重な経験となった．そして参加者全員がディスカッションを通して熱心に学問を追求する姿を見て，改めて口腔顔面痛という学問の難しさ，素晴らしさを肌で感じ取ることができた有意義な 2 日間であった．AAOT に限った話ではないが，国籍や文化などは違えども同じ専門分野を研鑽する先生方と交流を深められることこそ海外学会の魅力であり，日本だけでは味わえない刺激が得られると確信している．コロナも明け以前のように海外に行きやすい環境となった今，特に私と同世代の若手の先生方には是非この魅力や刺激を肌で感じ取ってほしいと思う．

各国の参加者での集合写真

【 滝澤 慧大先生のプロフィール 】

大学では初診患者や紹介患者の診断，ペインクリニックや口腔粘膜疾患，顎関節症を専門に診療にあたっている．現在大学院 3 年で，診療の傍ら Burning Mouth Syndrome おける臨床研究などを行っている．本大学の学生には症例を通して臨床推論の重要性や治療法の選択など国家試験を意識した教育を行っている．

趣味は筋トレですが，お酒もよく嗜むためカロリー収支マイナスを目指して頑張っています．

【略歴】

2020 年　日本大学歯学部卒業・日本大学歯学部付属歯科病院臨床研修
2021 年　臨床研修修了・日本大学歯学部口腔診断学講座（現口腔内科学講座）入局
2022 年　日本大学大学院歯学研究科　入学
現在に至る

【所属学会等】

日本口腔顔面痛学会・認定医
日本口腔診断学会・認定医
日本口腔内科学会
日本慢性疼痛学会

――――――――――――――――――――――――――――――――

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは
「日本口腔顔面痛学会事務局」まで
〒135-0033　東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内
TEL: 03-5620-1953，FAX: 03-5620-1960　E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp